

北九州市立思永中学校温水プール 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和7年9月30日（火） 13:15～16:30
- 2 場 所 小倉北区役所（小倉北区大手町1番1号）710会議室
- 3 出席者 （検討会構成員） 植田構成員、藤井構成員、増田構成員、
南構成員（座長）、森構成員
（事務局）教育委員会学校支援部長、施設課長、管理係長

4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明
- 構成員の互選により、座長を選出
- 検討会の流れ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
- 応募団体（スピナ・シンコースポーツ共同事業体）より提案概要に関してヒアリング
 - （構成員） 自主事業について、広報に力入れるということだが、立地場所等考えて、自主事業の計画に示されたような教室の開設を見込めると考えている、その根拠的なものがあれば教えていただきたい。仮にうまくいかない場合は、全体の収支に影響が出てくるかもしれないが、思うように自主事業が展開できなかった時にも、指定管理業務本体の方は円滑に進められるのか。
 - （応募団体） 自主事業についての根拠について、PFIの時の管理されていた事業者がやっていた教室をベースに作成した。その教室をやっていたのが昨年までである。現在行っていない状況で、利用者が離れていることを配慮し、最初は少なく、年々増やしていく計画であり、そこに無理をするということはないと考えている。
自主事業は、思うようにいかないという面に関しては、運営に支障はない。様々な宣伝広報も行っていきながら、収益を求め、代表企業と業者間で協議していく。
 - （構成員） 人件費が様式によって金額が違うが。
 - （応募団体） 税抜きと税込み価格で、様式12の方は最後に消費税を計上する形になっている。事業全体に消費税がかかるというような収支計画になっている。
 - （構成員） 自主事業の人件費は別途なのか、この中に入っているのか。
 - （応募団体） 別途、外部講師を当てている。人員配置計画の中には入っていない

い。

(構成員) アルバイトの単価はいくらで見ているか。

(応募団体) 当社の社会保険加入しているものやそうでないもの、交通費や雇用保険など含めて具体的にいくらというのではない。

(構成員) 合計1, 500円くらいか。

(応募団体) それぐらいの費用。

(構成員) 監視員の方が安い。

(応募団体) あくまでも1週間の時間数によって違う。

(構成員) 配置計画表の人件費と違うということか。

(応募団体) これは夏季限定アルバイトの2か月分。

(構成員) 毎年どのくらいのベースアップを見込んでいるのか。市で上昇率があったがその通りか。

(応募団体) 会社の定期昇給とか、直近の福岡県内の最低賃金65円アップを踏襲している。スピナとシンコースポーツそれぞれ企業の考え方はあるが、試算としては毎年、定期昇給を約66円と見込んでいる。

(構成員) 収入見込みの自主事業の数字は指定管理料に合わせた数字になっているが。

(応募団体) 最終的な不足分を自主事業利益でカバーする。

(構成員) 広報戦略について、これまでの実績があるということで、かなり細かい広報戦略立てられている。幅広い世代や、施設の利用者に広く届くような自主事業が大事になるが、桃園プールのほうで、一番効果的だった広報の手段は何か。また、支出の広告費について、ホームページ制作費が主だと思うが、求人募集については、施設の求人にかかるものか、もしくはチラシや折り込みにかかる経費が含まれているか。

(応募団体) 桃園については、ホームページ、SNS、インスタ、ラインを使っている。5月にこども真ん中イベントをした際に、北九州市の小学校にチラシを配布し、そこでインスタの友達になったらゲーム1回無料という仕組みとした。今インスタの方でも大体合わせて五、六百名ほどフォロアーがいる。やっぱり若い方は、インスタを見られている。かき氷販売等、夏季の期間中に熱中症対策を行ったが、インスタ見てきたという方が結構いらしかったので、思永中においても、セールスの活用が必要だと考えている。

支出の広告の件については、初年度は160万円でちょっと高めであるが、ホームページの初期構成費がかかっている。翌年度からは100万ぐらいをベースに見ている。このうちホームページ管理費用は20万円ぐらい。残り80万のうちの30万円ぐらいは、求人募集費用になるので、全体で50万ぐらいをチラシやWeb広告に活用していく。

求人募集費用についても、桃園が年間40万ぐらいかかっている。それよりも規模が小さいということから、少なめに当てている。

(構成員) 利用者数が目標設定3万人以上ぐらいで設定しているが、過去の

利用状況を見ると、思永中は多い時は8万人いった時がある。水泳教室除いても7万人を超えてる時期があった。減少の原因は何だと考えているか。

(応募団体) 一番はコロナの影響がある。どの施設も令和2年ぐらいから利用者が下がってきていて戻っていないという印象である。他の施設に来ていただく利用者さんたちが他の施設を拠点に活動されているところが一番だと考えている。

(構成員) 他のプールを利用していると考えている。

(応募団体) 一番はそれが理由かと。

補足として、戸畑区の浅生スポーツセンターが開業してからは、そちらの近くを使うようになるなど、新しい施設ができたらしめてもそちらに流れていく。

(構成員) 多分利用者数の数は、授業で利用している人も含まれていると思うが、授業をしなくなったとか、水泳自体からそもそも逃げてるというか、そこを確保しないといけないと思う。だからたくさん事業をするためにどういう考えなのか。水泳から離れてしまった利用者をどうやってプールに戻すかっていうこの二つを最後にお聞かせいただきたい。

(応募団体) 水泳から離れてしまったというのは確かにあるというふうに思うが、北九州水泳協会の詳しいスタッフや北九州の水泳連盟さんにお話を聞くと、小倉南区でも少しずつスイミングクラブがなくなっているという現状が今ある。思永中学校でもやっていた既存の団体さんも、利用者数が以前に比べて減っているから、もう事業をやめたという話も、我々の桃園のスタッフを通じて聞いている。水泳の人口をどう増やしていくかというのは、全体的に子どもの数が減っているのも、以前のように増えることはないが、学校水泳授業を通じて、思永中は学校水泳事業の拠点であるため、我々の自主事業につなげたり、これまで行っていないような広報戦略に力を入れていくことが思永中でスイミングも行っているという、まずその意識づけが重要である。

(構成員) 授業に関しては、例えば5月から10月まで使える期間があるとしたら、実質使っているのは6、7月と一部9月である。5月10月も使えるけど使わない、でも使える。そこをどう考えるか。

(応募団体) 桃園公園で、5月に子どもさん向けのイベントをした。テーマとしては、今までやったことないスポーツをまずゲームとして体験してもらって、その後スポーツ続けていただきたいということで、弓道とか、テニスとか、いろんなスポーツを複合的にイベントとして行ったが、そういったイベントを思永中学校でも行いたいと考えている。

プールをやったことないお子さんに、体験できるきっかけづくりが、イベント等でできればと考えている。

(構成員) 実際にプール利用される方の中には高齢者が多く、今後も増えてくる可能性があるが、その高齢者向けの考え方、広報も含めての考え方は。

(応募団体) 高齢者のシニア向けの教室は、企画をしているのでその中で、高齢の方でも、全く問題なく入れる教室だと考えている。実際のウェブ広告など、ご高齢の方がわからないという声もある一方で、ホームページとかないぞって言われることもある。デジタル化の広報は問題ないと思っているし、リーフレットも併せて、今回作成する予定になっているので紙とデジタルをバランスよくやることで、高齢の方にも周知することができると思っている。

(構成員) 券売機で対応できるのは、一回券だけか。定期券や回数券については受付で人とのやり取りなのか。

(応募団体) 券売機で回数券が10枚綴りでできるような設定もできるので、実際に金銭の授受的には券売機の方でやって都度、回数券額が定期券を確認するのは、窓口であることを想定している。

(構成員) 他のスイミングスクールに行っている小学生が多いと思うが、バスの送迎の予定はあるか。

(応募団体) 我々西鉄バス北九州のグループ会社になるが、この指定管理の中では、専属バスというのは正直ちょっと難しい。ただ、いろんな位置的にも素晴らしい場所にあるので、館内への時刻表の掲示や、ご質問があればどういうアクセスで乗り換えたらよいとか、そういったお手伝いは西鉄グループとしてさせていただきたい。

我々も事業計画する中で、過去にはスクールバスを走らせている中で、あれだけの事業者数が確保できたというのもある。やはりいろんなことを考える上でコストもそうだし、考えた時に立地面であれば、バスを選択されなくても集客ができるのではないかなと。近隣の施設よりもちょっとその分価格帯は抑えて、参加を募ることで、集客が見込めるのではないかと想定をさせてもらった。

(構成員) 学校から小学生が来るのに、中学生は授業時間に支障がないが、小学生だと着替えたりするのだけですがごく時間がかかって、プールに入る時間がほとんどないということを聞いたので。

(応募団体) そういったお客様の声が多数あるということであれば、今後こういった形でできるかは今ここでお話できないが検討していきたい。

○ 応募団体(九州医療スポーツACE共同事業体)より提案概要に関してヒアリング

(構成員) エンタメ性を高めることによって新たな部分が増える可能性もあれば、一方で敬遠される可能性も思うが、プラスマイナスでどのように戦略を立てているのか。

(応募団体) 具体的には、一般的な市民プールとしての運用がベースである。現状の午前中は高齢の方が歩いている、夏休み期間は1レーン、2レーンだけ子どもたちが遊んでいる中で、新しい使い方、例えばこの日は全部遊べるだったり、遊べる日を作ったり、それも含めてのエンタメ性。現行の運用にこだわらないことをするのと、いろんなことをやっていくと、それが嫌だという人もいるが、それを続けることによっ

て、よいところもあるねっということになってくる。やらないよりやるというところで考え、現状同じことを多少増やして教室が増えたというところであっても、目標人数を微々たる超える程度 なら、いろんな人にとって楽しいと思ってもらえるように、各種事業を展開していくと考えている。

健康寿命を伸ばす時に、一番大事なのは運動であるが、公共の場に出るのは嫌な人もいる。今、そういう人にどう運動を促すかということがとても大切であるため、何かこの場で解消できたらよいと考えている。

(構成員) 今のいろんなエンタメ性とか、これを企画するスタッフは誰がするのか。また、ACEさんと大学さんの役割のすみわけはどうか。

(応募団体) 1点目の企画は誰がするのは、基本的には現場の人間。JV管理部門は我々も含めて、月1回ミーティングや企画を組むのは基本管理部門で、人件費には計上できない部分。普段からそれぞれの法人で勤務している人間が担当。管理として、企画は現場に下ろす、逆に現場も含めてやりたいということがあれば、ミーティングの中でもできるということ。

(構成員) 本部にそういう人材がいるという理解でよいか。

(応募団体) できる人間も設置予定。統括できる人材を配置する。

(構成員) 統括責任者っていうのは、15年以上で、60代。できそうだと思うが、本部がバックアップする。企画はするけど、馬原さん呼ぶのは何とかできそうだけど。現実的には難しいのだろう。企画して、それが広まって楽しんでもくれるというのはできればよいが、企画倒れが多い。

(応募団体) そういう仲間が結構いる。

(構成員) 監視業務を外注するのは、結構人材がいるのではないかとコスト的にどうか。

(応募団体) 監視業務は自前で指定管理者がそのまま雇用した場合、警備法の観点からわからない。例えばアルバイトでも無研修でも、できてしまう。ただそこはこれまでコアズさんは思永中の監視業務をされているし、市内の市民プールの西側のエリアは、ほぼ監視業務はコアズさんが受けている。そういった中で、我々は企画に専念する意味でも、監視業務をお任せするという形を今回とる。

(構成員) 人材の育成はどうか。

(応募団体) そこに関しては、学校授業を受け入れる時に必要に応じて監視業務を学校から若い人材をといることを考えている。

(構成員) 施設維持管理6,600万と結構大きい。

(応募団体) そこはトータル人件費みたいな形なので、大きいがそれよりも安全安心というところで運営の足を引っ張らないようにというところ考えた。

(構成員) 自主事業について、幅広くどの年代の人でも参加できるようなプログラムを複数挙げていただいているが、集客が大事になってくる。初

年度から全部できるのか、少し数を絞り込んでから徐々に増やしていくのか。広報費については、どの程度の金額を見込んでいるのか。

(応募団体) 北九州に作った学校のコンセプトは、一流の人を養成するという。安価なセミナーを受けて、現場で働きながら、北九州でプロになるってことが一つとして、このプール事業のハイドロセラピーとか、そういうことが準備できたらよいと考えている。まだ順次と考えている。まず単発で提案事業を実施して、ある程度人気があるなしが出てくるので、そういったものを自主事業として展開していくというイメージ。初年度から全部ということでできれば最高であるが、ちょっと難しい。

広報については、チラシを作って展開したからと言って、結局、行政的に貼ってもらえるような市民センターや、学校はある程度知っていただいているのだろうと思っている。これまでではないところに対して広報するということで、インフルエンサーの活用については、これまでも何人かの方をお願いしてきており、そこまでの経費はかかっていない。もちろん、市政だよりなど使えるものは使う。

(構成員) 役割分担はどうか。

(応募団体) 国際志学園としては、まず事業である。有名選手や有名講師呼んでくるのは、理事長のネットワーク。マンパワーが必要なところは若手。我々はこれまでも他の施設ですけど管理運営してきているということもあるので指定管理の総務、まず経理を滞りなく、JVになるので、またもう一つの口座を作って運用していくということになるので、概ね事務も含めて企画、イベントとかの運営はこれまでもしている。人材的なところと、事務的に動くところとのすみわけ。

(構成員) メインは、ACEさんがやられて、人脈的な部分で相談されるということか。

(応募団体) 表に出るのは、JVの比重があるのであくまで国際志学園、我々はバックヤード的な法律的な感じで連携していく。

(構成員) 学校教育施設との連携というのがあるが、体育の授業や部活動の練習場として、どのようなサポートをされるのか具体的に聞きたい。

(応募団体) 体育の授業のサポートは、うちの学校の関連でもグラッチャという小学校1年生から6年生までの事業としている。それに伴って体育の事業という形でサポートはできると考えている。

水泳教室において、これまでの運営で補助をどういったことをされたかわかっているが、現場も望むことを可能な限り貢献する。例えばそれを教えてほしいというのはなかなか難しいが、安全管理や、例えばグルーピングして使いたいというグループに1人学生がいたらよいというのには貢献できる。

部活動については、教育委員会さんがいろいろ今動いているようで、具体的に例えば土日の練習が令和9年9月以降はなくなりますよという中で、まだ具体的にこれから決まっていく内容だと思うが、例えば水泳部だけでなく、水中でトレーニングしたい運動部の学生に

対して、もうすでに9月から1週目の土日はお休みですよっていうふうになってきていると思うが、そういった人に、プール使って運用できるような機会をまず既存部活に邪魔しないように、提供できたらよいと考えている。

- 応募団体（西日本スイミングクラブ有限会社）より提案概要に関してヒアリング（構成員） 子供たちの利用の増加と提案あるが、高齢者の利用増加についてはどう考えているのか。また、近隣の大学や企業と連携し団体利用や福利厚生としての活用を促進とあるが具体的な提案があれば教えてほしい。

（応募団体） 近隣の大学や企業との連携については、PFIのとき西日本工業大学とチームを作っており、学生の利用に何か貢献できるのではないかとこのところをもう一度掘り起こしたいと考えている。

高齢者に関しては、私どもはスイミングクラブがメインの企業であり、水中での浮力や抵抗力は高齢者等、足腰が弱っている方に適していると考えている。水中での腰痛改善運動、足腰予防改善、高血圧予防改善などの教室ができたと思う。それらの資格を持っており、いろんな形で指導、提案できると考える。

まずは子供の水泳授業を行い、時間を見つけて3ヶ月をスパンとした定期的な大人の教室を考えていきたい。

（構成員） 経験、実績はかなりあると思う。現状を見ると正社員3名、その他3名の6名とかなり縮小されていると思うが、あとは外部の人脈を通してというイメージを持った。

（応募団体） 監視業務に関しては別途、人を雇うことを考えており、事業費で上げている。

（構成員） 利用者獲得のための企画等を考えるのは正社員の3名か。

（応募団体） 正社員で企画運営を行っていく。また、自分が有する資格を活用して若者を教育していきたいと考えている。

（構成員） 債務超過になっている財務状況が一番心配である。

（応募団体） 土地を売買した影響等もあるが、問題ないと考えている。

（構成員） 時給が監視業務1,000円、自主事業は1,300円となっているが、自主事業は水泳を教えるからなのか。

（応募団体） インストラクターと監視ということで少し差をつけている。

（構成員） 人件費は正社員と受付ということか。

（応募団体） そのとおり。受付と監視の責任者である。

（構成員） 人件費は9から11年度が同じだが賃金アップについては考慮していないということか。

（応募団体） 年々上昇していくが5年後の最低賃金が予想できなかった。

（構成員） 市の提示は4.7%のようだが。

（応援団体） 10、11、12年と自主事業から市へ還付する金額を落として調整している。

（構成員） 営業・広報活動について独自のホームページを運営して施設情報

や利用案内を発信すると書かれているが、何かそれ以外に情報発信の手段として、ご自身たちでされること、SNSの利用や、それ以外の具体的な何か方法は考えているのか。

(応募団体) ホームページにSNSをリンクさせる。

先日うちのグループで、先生を呼んで「今後のSNS活動」という課題の研修を行った。その中でSNS等を今からどうやって活用しようか。もちろんAIも含めて今から、うちのグループとしてどうやって対応していこうかと考えた。今すぐに具体的にと言われてもなかなか困るが、その先生と相談をしながら、正式に指定管理ということになれば、ホームページの立ち上げから、そういったこともお手伝いをお願いしたいと考えている。

今いろんな部分を見ても、利便性や使い勝手、情報発信というのは、SNSをどんどん活用していきましょうというのが今の世の中の流れになっている。そのようなことは今後考えていきたいと思う。

(構成員) 現在中学校の授業と、水泳の補助事業を行っているということだが、これは思永中のプールで行っているのか。

(応募団体) そのとおりだが、あくまで教育委員会が主導である。

(構成員) 具体的にどのような補助業務を行っているのか。

(応募団体) 水温の管理や、子どもたちのことである。今年度はバスの送迎も全部担当した。

(構成員) 今後、利用者の目標を例えば3万人を1,000人増やしたいとした場合、水泳の授業や高齢者の水泳教室も増やしていけないといけないと思うが、何かアイディアがあれば教えてほしい。

(応募団体) まずは皆さんに、思永中のプールに行ったら安心して安全に利用できる。ということを知ってもらうのが一番である。

大人に関しては、学校授業が行われるときは学校優先、授業が優先になるため、プールの営業時間は16時に学校授業が終わって、清掃して、はじめて一般開放につなげられるという現状である。学校授業が多くなればなるほど、午前中に利用したい大人のひと、高齢者に関しては、そこら辺の話をしながら、午前中に利用したい人をどうやって夕方にもっていけるかと。こういったことを提案していかないといけないと考えている。

学校プールとしての役割と、市民、高齢者の人の役割、それから学校利用としての利用がもっと増えると、もっと16時からの営業が増えてくると思う。そこら辺を市の方と協議をしながらいろいろ考えていかない。今すぐという結論はなかなか出にくい。

(構成員) 逆に、小学校、中学校の水泳授業の利用は増えても運営はできるのか。

(応募団体) それはできる。そこで利用者をいかに減らさないかということを知今後、市の方と協議をしていかないといけないのではないかと。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。そ

の後、構成員全員で意見交換

(構成員) 最初の提案は、他の指定管理も多く手掛けているということもあり、手堅い提案であったと感じた。冒険しすぎることなく、確実に実現可能な提案であったため、安心して任せられる運営を期待できる。

二番目はユニークな提案で、若者を巻き込み、プールにこれだけの可能性があるというワクワクするような提案に非常に心惹かれる部分が多かった。しかし、具体的に、どれがどれだけ実現できるのか、またこの数字の見込みに関しても、利用者数に関しても、収支に関しても、すべてこの数字が本当に実現可能なのか、どこからこの数字が具体的に出てきたのか、という点に不安を感じる部分があった。

三番目はこれまでの経験が豊富であると感じた。思永中学校のプールについても非常によく理解していると感じたが、利用者数3万人の目標達成が最後の2年間に設定されている点や、幅広い世代ではなく限られた世代にターゲットを当てている点、広報・周知が弱いと感じる点があった。

(構成員) 私はまず、募集要項に記載されている「水泳授業を行うとともに、教育上支障のない範囲で」という点を第一に質問した。

第一の団体は様々な市内のプール管理経験はあるが、私は経験上、良い点も悪い点も承知しているため、その観点で様々な質問をした。しかし、望んでいた回答ではなかったため、厳しめの点数を付けた。

二番目は、提案自体は非常に面白いものだが、今回の目的に合致しない、あるいは思永中学校のプール運営にはそぐわないと判断した。

三番目に関しては、これまでの経験があり、教育に関しても理解されていると感じたが、数字のミスや運営上の財務的な問題が懸念されたため、その観点で点数をつけた。

(構成員) 一番目の団体については、安定性が高く着実な指定管理が期待できると考えた。

総合力については、他団体と比較して、安定性の意味で一つ優っている部分があったかもしれないが、地域貢献の部分については、さらに踏み込んだ取り組みが必要ではないかと感じた。

二つ目の団体については、従来の枠を超えた非常に意欲的な提案であった。一方で、思永中プールの特性を勘案するとやや冒険的すぎると感じる面や、直接的な安全対策や維持管理を行う企業が構成団体ではなく協力企業という位置づけであり、その意思決定などにおいて不安を感じる点があった。

三番目の団体については、施設を熟知しており実績に裏打ちされた取り組みに十分期待できると考える。しかし、施設利用者増に向けた取り組み等に不足感があると感じ、このように評価した。

(構成員) 私は、三つの団体の中で、最後の団体が最も学校を中心として考えられている仕組みであると感じた。

一つ目の団体は中間的であり、二つ目の団体は現在の学校の方針と少しずれており、やや遊びの要素が入るような考え方であると全体

的に感じた。

最後の団体に関しては、発表の際にも言及があったが、学校からの送迎は非常に重要な点であると感じた。児童や子供たちを学校にバスで送り迎えしてくれる点は非常に重要であり、保護者目線からは授業の一環として極めて大きな視点であると考えた。

(構成員) 財務の視点から見て、安定性において一番目にスピナを評価した。

医療スポーツとACEについては、あまり優れてはいないが問題は無いと判断し、中間的な位置付けにしました。ただし、様々な提案は非常に面白いものであり、どこかに適用するにしても、やや遊びの要素や革新的な部分を取り入れてはどうかと考える。

最後の西日本スイミングクラブは、通常通り運営はされ则认为るが、現実的には財務面で懸念があり、企画等がやや弱いと判断し、点数を低くつけた。そのような意味では、最も安全なのは最初の団体であると考えた。

(構成員) 事務局に質問する。先ほど構成員から話のあった授業活用の際の送迎の件だが、その点については今回の指定管理の中でどのような位置付けになっているのか。今後、教育委員会として何か考えがあるのかを教えてほしい。

(事務局) 今回の指定管理業務において、思永中以外の学校が思永中プールを利用する際の送迎は指定管理料に含まれていない。現在、他校集約時は教育委員会が別途、業務委託でバスの送迎をする業者を選定しているが、現在は偶然、西日本スイミングがその業務を受けている形になっている。来年度以降もこの形を継続するので同様に教育委員会が別途手続きを行うことになる。

○ 各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各審査項目の評価レベルを、

1 指定管理者としての適性のうち、

(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針について

スピナ・スポーツシンコー共同事業体 4

九州医療スポーツACE共同事業体 3

西日本スイミングクラブ有限会社 4

(2) 安定的な人的基盤や財政基盤について

スピナ・スポーツシンコー共同事業体 4

九州医療スポーツACE共同事業体 3

西日本スイミングクラブ有限会社 3

(3) 実績や経験などについて

スピナ・スポーツシンコー共同事業体 4

九州医療スポーツACE共同事業体 3

西日本スイミングクラブ有限会社 4

2 管理運営計画の適確性のうち、

- | | |
|----------------------------|---|
| (1) 施設の設置目的の達成に向けた取組みについて | |
| スピナ・スポーツシンコー共同事業体 | 4 |
| 九州医療スポーツACE共同事業体 | 4 |
| 西日本スイミングクラブ有限会社 | 3 |
| (2) 利用者の満足度について | |
| スピナ・スポーツシンコー共同事業体 | 3 |
| 九州医療スポーツACE共同事業体 | 3 |
| 西日本スイミングクラブ有限会社 | 3 |
| (3) 指定管理料及び収入について | |
| スピナ・スポーツシンコー共同事業体 | 4 |
| 九州医療スポーツACE共同事業体 | 3 |
| 西日本スイミングクラブ有限会社 | 3 |
| (4) 収入計画の妥当性及び実現可能性について | |
| スピナ・スポーツシンコー共同事業体 | 4 |
| 九州医療スポーツACE共同事業体 | 3 |
| 西日本スイミングクラブ有限会社 | 3 |
| (5) 管理運営体制などについて | |
| スピナ・スポーツシンコー共同事業体 | 4 |
| 九州医療スポーツACE共同事業体 | 3 |
| 西日本スイミングクラブ有限会社 | 4 |
| (6) 平等利用、安全対策、危機管理体制などについて | |
| スピナ・スポーツシンコー共同事業体 | 4 |
| 九州医療スポーツACE共同事業体 | 3 |
| 西日本スイミングクラブ有限会社 | 4 |
| (7) 社会貢献・地域貢献について | |
| スピナ・スポーツシンコー共同事業体 | 3 |
| 九州医療スポーツACE共同事業体 | 4 |
| 西日本スイミングクラブ有限会社 | 3 |

が妥当であると決定した。

- 事務局は地元団体に対する優遇措置や優秀事業者に対する優遇措置を反映させたうえでの合計得点を発表。

- ・スピナ・スポーツシンコー共同事業体、89点
- ・九州医療スポーツACE共同事業体、79点
- ・西日本スイミングクラブ有限会社、77点

- 構成員は、次のとおり検討会としての検討結果（総合的な所見）についてとりまとめた。

合計得点では、スピナ・スポーツシンコー共同事業体が最も高い点となっている。一方、各構成員の5段階評価の単純合計（項目ごとの配点比率を考慮しない場合）をみると、スピナ・シンコースポーツ共同事業体を最も高い点としている

構成員は3名である。九州医療スポーツACE共同事業体は0名である。西日本スイミングクラブ有限会社は2名となっている。人数でみてもスピナ・スポーツシンコー共同事業体が多い。

本検討会として、総合点が最も高いスピナ・シンコースポーツ共同事業体を思永中学校温水プール指定管理者候補に相応しいと判断する。

検討会としての総合的な所見として、

- ・三つの団体からそれぞれ特色のある、非常に意欲的な提案がなされた。
- ・その上で、三団体とも優れた点がある中で、スピナ・シンコースポーツ共同事業体がいずれの項目を見ても総合的に最も評価が高かった。
- ・スピナ・シンコースポーツ共同事業体が総合的な安定感があった。

とする。市は、検討会における議論を参考に、最終決定を行われたい。なお、検討会の付帯意見として、

- ・教育施設としての本義を鑑み、提案の目的を達成するような事業運営を行っていただきたい。

を付することとする。

○ 最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。